

新入社員歓迎会・家族交流会 釜石支部

## 会社の復興・再生に全力で闘い抜こう

支援の「ミカン」仏さんと食べる

(岩手地本)

2012年3月18日 釜石タクシーで、組合員・家族に感謝を伝える交流会が開きました。

東日本大震災・大津波の甚大な被害を受けてから1年が経った釜石市は、未だ津波で破壊された家屋の撤去が続いています。さらに、街の復興計画がなかなか進まず、不安を抱えながら会社再建に取り組んでいる釜石タクシーでは、組合員・家族の日頃の苦勞に感謝を伝えるため3月18日に岩手地本森委員長を来賓に迎え、新入社員の笠原さんの歓迎会と組合員・家族交流会を開きました。



主催者を代表して小澤社長は「震災の被害が余りにも大きく会社の継続を断念したが、全自交岩手地本の森委員長や釜石支部組合員の会社再建への熱意にもう一度会社を建て直す決意をした。未だ会社再建には至っていないが、従業員・家族の皆さんとともに必ず再建する」と決意が示されました。

引き続き挨拶に立った後藤委員長は「1年前一番不安で困っているときに全自交という組織が我々を支え救ってくれた」と感謝を示し、「現在会社の再生に向け、組合員に大変な苦勞を掛けている。しかし、ここで止めてしまえば職場が無くなり、働く場を失うだけでなく、暮らすこともできなくなる。難儀をかけるが家族の皆さんに支えていただき、今の苦勞が報われるよう会社の再建を実現する」と述べました。

来賓で参加した岩手地本の森委員長は「個人の都合で退職したり、遠方に避難して戻ってこない仲間がいるが、狭く、暗い仮設住宅の厳しい環境下で暮らしながら会社の復興・再生に懸命に取り組んでいただいている組合員とそれを支える家族がいる」と労をねぎらい

ました。また「退職職者がある一方で若い人たちが釜石タクシーに入ってきている。ともに手を携え会社再建に頑張っていこう」と歓迎し、「これまで受けた全国の仲間から支援を忘れることなく、感謝の気持ちを力に変えて、家族とともに会社の復興・再生に全力で闘い抜こう」と激励しました。その後、自宅や自家用車を流失・破壊され、仮設住宅で暮らしている組合員・家族に義援金の目録が贈呈されました。



交流会ではカラオケ大会となり、組合員・家族が自慢の喉を披露し、最後に、小原副委員長が交流会を継続したい。組合員・家族が心一つに頑張っ、また元気に合うことを約束し一本締めで交流会は終了しました。

組合員・家族は、支援で頂いた「ミカン」を抱え、仏さんに上げてから一緒に食べると笑顔を見せ大切に持って帰られました。